

20 神戸視力障害センター就労移行支援卒業生に対する運動・スポーツ実態調査

神戸視力障害センター教務課 細川健一郎

1. 目的

卒業生の運動やスポーツの実施状況などを把握することにより、生涯スポーツの視点から体育授業を評価し、内容や方法を見直すための一助とすることを目的とする。

2. 方法

平成13年4月から平成29年3月までの卒業生200名に対して点字・墨字による郵送調査を行った。調査期間は平成29年8月～10月、回収は76（回収率38%）であった。

3. 結果

- (1) この1年間の運動・スポーツの実施状況：この1年間に何らかの運動・スポーツを行ったと回答した者の割合は60.5%、「行わなかった」とする者の割合は39.5%であった。
- (2) この1年間に行った運動・スポーツの種目（複数回答）：この1年間に運動・スポーツを行った者（以下、スポーツ実施者）にどんな運動・スポーツを行ったか聞いたところ、「ウォーキング（散歩、歩け歩け運動などを含む）」を挙げた者の割合が60.9%と最も高く、以下、「室内運動器（トレーニング器具など）を使ってする運動」43.5%、「体操（ラジオ体操、エアロビクス、縄跳びなどを含む）」34.8%、「ハイキング」17.4%、「水泳」「卓球・サウンドテーブルテニス」13.0%などの順であった。
- (3) この1年間に運動・スポーツを一緒に行った人（複数回答）：スポーツ実施者に誰と運動・スポーツを行ったのかを聞いたところ、「一人で行う」とした者の割合が最も高く65.2%となり、次いで「視覚障害者の仲間と行う」「晴眼者の仲間と行う」34.8%、「ボランティアと行う」30.4%などであった。
- (4) 当センターでの体育授業が修了・卒業後の運動・スポーツ実施に対して役立っているか：スポーツ実施者に当センター在中所の体育授業が、運動・スポーツ実施に役立っているかどうか聞いたところ、「役立っている」とした者の割合が71.8%（「非常に役立っている」37.0%＋「どちらかといえば役立っている」34.8%）、「役立っていない」とした者の割合が21.7%（「どちらかといえば役立っていない」13.0%＋「役立っていない」8.7%）、「わからない」6.5%であった。
- (5) この1年間に運動・スポーツを行わなかった理由（複数回答）：この1年間に運動やスポーツを「行っていない」とした者にその理由を聞いたところ、「仕事（家事・育児）が忙しくて時間がない」とした者の割合が56.7%と最も高く、次いで「機会がなかったから」36.7%、「仲間がいないから」33.3%、「指導者がいないから」26.7%などであった。

4. おわりに

今回のアンケート結果を踏まえて今後の体育授業の在り方や地域における関係団体との連携や協働について検討し、運動・スポーツ実施上の障壁を減じると同時に、生涯にわたり運動・スポーツを継続するための他の要因（有能感が得られ、取り上げた教材の醍醐味が感じられるなど）についても再検討を行い、より良い体育授業の実践につなげていきたい。